

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所 チャイルドクラブあおぞら			
○保護者評価実施期間	R7年12月1日		～	R7年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数)	19名
○従業者評価実施期間	R7年12月1日		～	R7年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 9日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達過程や特性を理解した上で、一人ひとりの状態に即した質の高いサービスの提供を行っている。	作業療法士による個々の特性に応じた活動プログラムの実施や、理学療法士や言語聴覚士による保護者相談会を実施した。	子どもの発達過程に応じて、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士による専門的なアプローチを行い、支援の充実を図る。
2	多機能事業所の専門性を活かし、地域の子どもたちを含む家族との交流の場を提供し、地域とのつながりを大切にできるような取り組みを行っている。	地域の子どもたちを含む家族との交流の場として、親子体操教室、芋掘り体験を実施した。	来年度も継続して、親子体操教室、収穫体験を実施する予定である。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの発達過程や特性を理解した上で、一人ひとりの状態に即した質の高いサービスの提供を行っているが、さらに職員一人ひとりの専門性を高める必要がある。	支援ニーズの高い児童の支援等、多種多様な特性への支援が求められていることが挙げられる。	質の高いサービスの提供を行えるよう、専門職を中心に、職員の専門性を高め支援を行っていく。
2	地域の子どもたちを含む家族との交流の場として、親子体操教室、芋掘り体験を実施しているが、交流の場をさらに広げていく必要がある。	地域の様々な方が参加できるよう、取組の規模や広報の方法など工夫が必要になっていることが挙げられる。	地域とのつながりを大切にできるように、現状の体験だけでなく、様々な方が参加できる取組の実施を行っていく。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
チャイルドクラブあおぞら		R8年 1月 9日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		手すり付きのトイレや、高さの低い洗面台もあり、車いすの利用者でも利用できるつくりになっている。部屋の上部にブラカードがあり何の部屋かわかるようになっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日清掃を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		相談室や静養室等、個別に過ごせる空間がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		会議等で話し合いを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年、保護者向けのアンケートを実施している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎月の会議等で意見が発言しやすく、よりよい支援を考えることができる。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		各職員に合わせた研修を受講することができる。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメント、モニタリングを行い、個々に応じた計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画作成会議を行い、職員間で検討し、計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画作成会議を行い、情報の共有を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日誌入力を行い、いつでも確認ができるようにしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		各児童に合わせた支援内容を設定し、実施している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		多職種で連携を取り、活動プログラムを考えている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動の曜日を固定化せず、いろいろな活動に参加ができるようにしている。新しい活動についても積極的に取り入れるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	2	振り返りの時間は設けていないが、その日の出来事は共有したり、会議等で話し合っている。	児童の送迎を行うとその日のうちに情報の共有ができないことがある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日頃の変化を見逃さず、日誌に記入するようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に1回はモニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自由遊びの時間を設け、好きな遊びができる時間を設けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校へのお迎えの際など、先生と情報交換を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	2	相談支援事業所を通して、情報提供をしていたいている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		相談支援事業所を通して、情報提供をしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		外部講師に依頼し、助言をいただいている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域交流会など定期的の実施している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		お迎えの時や連絡帳など、児童の様子をお伝えし、情報の共有を図っている。	
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		参観・保護者会を定期的の実施している。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリングで聞き取りを行い計画の作成をしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要に応じて面談を行う機会を設けている。保護者会で直接悩みを伺っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会を実施している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月の通信の発行、施設の掲示板、HPで活動の様子を掲載している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		顔写真の使用など、保護者から事前に許可をもらっている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもの特性に合わせたツールで意思疎通を図っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域交流会を実施している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		子どもの状況は確認しているが、服薬支援は行っていない。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーの確認は行っているが、現在は医師の診断書に基づく対応が必要な児童の利用はない状況である。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		会議で振り返りを行い、再発防止に向け検討をしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		職場内研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		該当者はいない	